



岐阜大学国際交流

NEWS Letter

59

For International Exchange
Gifu University

October 2025



GU-GLOCALシンポジウム2025

7月14日

2025年7月14日(月)、グローバル推進機構は、岐阜大学シンポジウム・GU-GLOCALシンポジウム2025『日本の魅力を発信!ストーリーのカ×グローバル視点=?』を本学講堂で開催し、学内外から312名が参加しました。

はじめに、映画ドラマプロデューサーの山田 兼司氏が『映画における「世界」とは?』と題して講演しました。山田氏は、世界的に高い評価を受けた作品を数多く手がけてきた経験から、国境を越えて人の心を動かすストーリー作りに不可欠な“4つの原則”と“7つのエレメント”を軸に人の心を動かすコンテンツ制作の背景にある視点について語りました。

続く鼎談には、山田氏に加え、脳科学者で作家の茂木 健一郎 客員教授、リム リーワ 副学長(国際展開・多様性・ジェンダー(男女共同参画)(副)・図書館(副)担当)が登壇し、『ストーリーのカ×グローバル視点が生み出すモノとは?』をテーマに語り合いました。話題は“世界に届ける”ために必要な考え方にも及び、世界を直接目指すのではなく、自分の半径5メートルを深く掘り下げることこそが結果的にグローバルに通じる普遍的な価値や共感にたどり着くというアプローチの意義についても語られました。参加者からは、「映画の話かと思っていたが、どんな分野にも通じる内容だった」、「自分のストーリーを深めるために、ネガティブな面にも向き合い、“好き”を突き詰めたいと思った」など、前向きな感想が多数寄せられました。

グローバル推進機構では、今後も学生・教職員・地域の皆様に向けた国際的な視点を育む企画を継続して開催してまいります。

本シンポジウムは、「Glocal Lesson」^(注)にて配信しています。

(注) Glocal Lesson (ご視聴には無料会員登録が必要です。)

<https://www.gu-glocal.com/>



シーナカリンウィロート大学(タイ王国)と大学間学術交流協定を締結

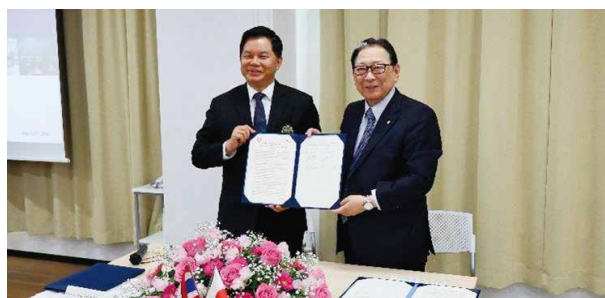
3月27日



2025年3月27日、岐阜大学とシーナカリンウィロート大学(SWU)は大学間学術交流協定を締結しました。調印式には岐阜大学から吉田 和弘 学長、リム・リーワ 副学長(国際展開・多様性・ジェンダー(男女共同参画)(副)・図書館(副)担当)、小山 博之 グローバル推進機構長、山田 雅弘 教育学部長、野村 幸弘 教育学部教授、大場 伸也 応用生物科学部附属 岐阜フィールド科学教育研究センター教授らが出席し、SWUのチョルウィット・ジェアラジット学長はじめ33名の訪問団を歓迎しました。

本学とSWUの交流は、2015年3月に両大の教育学部間で部局間協定を締結したことから始まりました。2017年8月にはタイ教育省と岐阜大学が共同開催した「第1回 特別支援教育国際シンポジウム」で協力し、2022年12月には大場 教授がSWUを訪問し連携を深めました。2023年1月にはSWUのキッチャイ助教と大学院生12人が、教育学部と応用生物科学部附属 岐阜フィールド科学研究教育センターを訪問しました。さらに、2024年7月にはSWUのソムチャイ・サンティワタナクンル学長をはじめとする教職員10名と学生16名が本学を訪問し、教育学部の施設見学や岐阜フィールド科学教育研究センターでの障がい者によるトマト栽培の見学を行いました。

岐阜大学とSWUは今回の協定締結により学術交流をさらに深め、今後より一層の教育・研究交流を推進していきます。





JDP国際連携食品科学技術専攻(修士課程)の日印学生が本学での勉学を開始

4月4日

2025年4月4日(金)、岐阜大学・インド工科大学グワハティ校(IITG) 国際連携食品科学技術専攻(修士課程)の新年度ガイダンスが行われ、岐阜大学を主大学とする学生3名とIITGを主大学とする学生4名が本学での勉学を開始しました。

国際連携専攻の学生は本学と海外相手大学の両方に在籍し、標準修業年限(修士2年)の中で一定期間を相手大学で修学します。留学を伴う国際的な教育環境の中で講義履修と研究活動を行い、在籍期間を延長することなく両大学による国際共同学位を取得することができます。

岐阜大学を主大学とする学生3名は本年7月中旬まで岐阜大学での講義履修と研究活動を行ったのち、7月下旬からはIITGでの留学(5か月)を開始します。一方、IITGを主大学とする学生4名は8月下旬までの5か月間、岐阜大学で講義履修、岐阜大学教員の下での研究活動、日本企業でのインターンシップを行います。7月中旬までの期間は、日印学生は共に顔を合わせて学び合い、国際共同学位取得という共通目標に向かって切磋琢磨します。

インド学生の本学留学に対し、独立行政法人日本学生支援機構 2025年度 海外留学支援制度(協定派遣・協定受入) 双方向協定型からの支援を受ける予定です。



インド工科大学グワハティ校でジョイント・ディグリーシンポジウム2025を共同開催

3月3日～5日

2025年3月3日(月)～ 3月5日(水)、本学はIITGとグワハティ ジョイント・ディグリーシンポジウム2025を共同開催いたしました。今回のシンポジウムは、IITGキャンパスにおいてハイブリッド形式で開催され、3月3日及び4日の2日間でオンラインを含む延べ176名の方にご参加いただきました。

シンポジウム初日の開会式では、吉田 和弘 岐阜大学学長(ビデオメッセージ) およびK. V. Krishna 学長代理より開会の挨拶に続き、Sibi George 在日本インド大使からの祝辞がビデオメッセージとして上映されました。その後、渡辺 真人 在日本インド大使館 一等書記官とGautam Barua 教授より基調講演を賜りました。また、開会式では、同時期に開催されるスプリングスクールの開会式が執り行われ、プログラムに参加する10名の岐阜大学学生が紹介されました。その後のアカデミア連携セッションでは、NER(北東部地域)の機関が紹介され、日本の大学関係者(東京大学、筑波大学)および日本の政府機関(JST(科学技術振興機構)、JSPS(日本学術振興会))、日印大学教員および日本の政府機関(JETRO(日本貿易振興機構)、JICA(国際協力機構))ならびにシンポジウム参加企業が紹介され、それぞれ活動紹介をいただきました。

シンポジウム2日目のバイオ/生命科学セッションの基調講演では、藤田 盛久 岐阜大学教授より「Decoding the “Life of Glycan” with genetic and glycomaple strategies」について講演されました。また、スマート/インテリジェントセッションの基調講演では、茂木 健一郎 岐阜大学客員教授が「AIのアライメントと人間の脳」をテーマにご講演されました。

シンポジウム3日目に行われた研究施設・企業訪問では、グワハティ大学への表敬訪問ならび研究施設見学、バイオ企業訪問、デジタル設計および3Dプリンターに関するCOEの見学を行い、NERとの大学連携ならびにNERにおける生物資源および研究技術開発の現場に対する理解を深めることができました。



中部経済産業局及び中部経済連合会との連携企画「Meet Up Chubu vol.64」を開催

6月12日

2025年6月12日(木)、中部経済産業局、中部経済連合会及び岐阜大学の共催により「Meet Up Chubu vol.64 CN(バイオマス・竹資源活用) with 岐阜大学グローバル推進機構」を実施し、計257名の参加がありました。

小山 博之グローバル推進機構長からは岐阜大学グローバル推進機構のこれまでの取組紹介、海老原 章郎副機構長からは地域・企業・大学をつなぐコンソーシアムの重要性について解説が行われました。

進行は、グローバル推進機構の三輪 真一特任教授が務め、活発な情報交換を促しました。

企業・研究機関からは、竹をはじめとした植物由来資源の多様な利活用事例が発表されました。愛知海運株式会社によるバイオマス燃料輸入を取り巻く現状の報告、中越パルプ工業株式会社によるセルロースナノファイバーを、薬品を加えず水の力を利用して取り出す技術、丸大株式会社の常温一工程による竹の超微粉碎技術など、環境と経済を両立させる先進的な取組が紹介されました。

※本開催は、2022年度から継続的に実施しています竹資源利用勉強会としても位置づけています。



先輩からのメッセージ

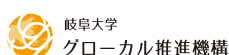
2021年12月に岐阜大学の博士課程を修了後、岐阜工業高等専門学校の電気情報工学科に助教として着任しました。理論および実験科目の授業担当に加え、研究活動にも従事しています。

現在の研究テーマは、太陽光発電用シリコン系半導体膜等の先進材料の開発です。

教育・研究活動に加えさまざまな事務的業務にも携わっています。大学在学中に幅広く学術・研究活動に関わった経験は、私の学術分野での基盤を築く上で非常に有益であったと思っています。



岐阜工業高等専門学校 ラフル・クマール
工学研究科環境エネルギーシステム専攻 2021年修了
(インド工科大学カラグラプール校修士課程 2017年修了)



編集・発行：岐阜大学グローバル推進機構 E-mail: kokusaik@t.gifu-u.ac.jp

事務局：岐阜大学学務部国際事業課国際総務室(国際交流に関すること)

TEL:058-293-3351 E-mail: int_exch@t.gifu-u.ac.jp

岐阜大学学務部国際事業課留学支援室(留学に関すること)

TEL:058-293-2142 E-mail: direcent@t.gifu-u.ac.jp



岐阜大学国際交流 NEWS Letter

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/planning/data/newsletter/index.html>



<https://www.youtube.com/channel/UCMJkz04fsxzo3ogeNHC-PA>



2025年6月18日(水)から7月16日(水)にかけて、本学主催によるサマースクールを開催し、学術交流協定校であるノーザンケンタッキー大学(米国)、南フロリダ大学(米国)、ブラヴィジャヤ大学(インドネシア)及びリール大学(フランス)より、計13名の学生を受け入れました。

本サマースクールでは、日本語授業に加え、日本文化に触れる体験型プログラムを実施しました。今回は、美濃市(美濃和紙の紙すき体験)、関市(刃物ミュージアム及び日本刀鍛冶の見学)及び郡上市(郡上プログラム)に加え、初めて、犬山市(犬山城見学及び城下町散策)を訪問しました。また、郡上プログラムにおいては、新たな取組として、「ホームステイ」または「日帰り」のいずれかの参加形態を選択できるようになり、12名がホームステイを、1名が日帰り参加を選びました。学内では一般学生とともに、能楽(能・狂言)の鑑賞やセタイイベントへの参加も行いました。

サマースクール期間中、参加者が滞在するシェアルームには、常時2名のレジデント・アシスタントを配置し、必要に応じてさらに1名が支援を行う体制を整え、寄宿生活に関する指導や生活面のサポートを提供しました。学生交流活動においては、各参加学生に1名の学生サポーターを担当させることで、活動が円滑に進むよう支援しました。



日本語・日本文化教育センター(日文センター)主催

郡上踊りワークショップ

5月14日

2025年5月14日(水) 日文センターは、「郡上踊り」のワークショップを開催しました。「郡上踊り」は、ユネスコ無形文化遺産であり、国重要無形民俗文化財に指定されている踊りです。当日は、アメリカ、インド、インドネシア、イラン、スペイン、タイ、中国、バキスタン、東ティモール、フランス、ベトナム、マレーシアからの約30人の留学生在が参加しました。

ワークショップの始まりに先立ち、美濃市の着付けグループの方々から浴衣の着付けを行い、留学生たちは色とりどりの浴衣を身に付け、写真撮影を楽しみました。

ワークショップでは、郡上市から2名の講師を招き、郡上踊りの代表的な2曲「かわさき」と「春駒」を指導していただきました。講師から手の動きや足の動きを丁寧に学び、参加者は真剣に日本の伝統文化を体験しました。ワークショップの最後には郡上市ゆかりの記念品が配られました。留学生からは「最初は難しかったが、踊れるようになって嬉しかった」「もっと郡上踊りを学びたい」という感想が寄せられました。留学生にとって、日本や岐阜の文化を感じる貴重な機会となりました。



能楽ワークショップ

7月9日

2025年7月9日(水) 日文センターは、能楽(能・狂言)ワークショップを開催しました。今回のワークショップには、6月から本学に留学しているサマースクール参加学生を含む約50名が参加し、日本の伝統文化を堪能しました。

センターでは、2005年度からプロの能楽師を招いてワークショップを開催していますが、今年は、能の講師として観世流シテ方の味方團先生と田茂井廣道先生、狂言の講師として、大蔵流狂言方の茂山忠三郎先生と山口耕道先生の計4名をお招きしました。

ワークショップでは、仕舞「岩船」の実演を皮切りに、能楽の歴史、謡「高砂」の稽古、能と狂言の面(おもて)の違い、能楽の楽器、狂言の「笑い」と「泣き」の表現、狂言「寝音曲(ねおんぎょく)」と能「安達原」の鑑賞、能装束の特徴など、充実した学びの時間を過ごしました。また、日本語が堪能ではない参加者を念頭に、英語を交えた説明が行われました。

普段なかなか触れることができない本物の「能」「狂言」を体験する貴重な機会となりました。参加者の満足度も高く、アンケート結果は非常に良好でした。



岐阜大学で学ぶ



教育学研究科
カーボネル
パロディ
ダニエル アロンソ



コロンビア

日本の芸術と美

ある日、私は日本のノーベル文学賞作家・川端康成の作品を読んで、彼の文章に込められた感情に心を打たれました。「なぜ日本では、こんなにも繊細な感覚が生まれるのだろうか?」「なぜ彼は、この言葉を選んだのだろうか?」「彼はこの夢のような光景を、どこで見たことがあるのだろうか?」「川端康成は、どのような心を持っていたのだろうか?」そんな問いが浮かびました。日本は、「美しいもの」が深く大切にされている国だと感じます。では、美しさがこれほどまでに大切にされるためには、私たちはどのような人であり、どのように生きる必要があるのでしょうか?私は現在、岐阜大学の美術教育プログラムで、日本美術史を学びながら、日本における美術教育のあり方について研究を行っています。

この学びを通じて、日本の芸術家たちが、どのように「美を見つめる感性」と「持続する心」を育み、作品に反映させているのかを理解したいと思っています。そして、芸術を学校教育の中で、より真摯に、より豊かに体験できる方法を探りたいと思っています。この経験を自国に持ち帰り、生徒たちにとってより良い美術教師となるとともに、日本の芸術と文化について伝える教育者になることが、私の目標です。





Spring School Program 2025

3月3日～15日

グローバル推進機構では、ジョイント・ディグリープログラム (JDP)^(注)を共同設置しているインド工科大学グワハティ校 (IITG) と連携して、全学を対象に短期派遣プログラムのスプリングスクールプログラムを提供しています。2025年3月3日 (月) から3月15日 (土) にかけて第4回スプリングスクールプログラムがIITGにて開催され、41名の応募の中から選抜された本学学生10名が参加しました。

初日である3月3日 (月) には、スプリングスクールプログラム開講式が、岐阜大学と共同開催のジョイント・ディグリーシンポジウム2025会場にて同時に執り行われました。期間中には、アッサム州を代表する国立公園見学や民俗博物館などの見学を通じて、多様性に富むインド文化を学ぶ機会が提供されたほか、自然農法の普及センターや生物農薬メーカーの見学を行いました。学内では、デザイン学科でのジュート (黄麻) の活用方法のワークショップや、IITGでのJDP関連学科を中心としたラボツアーが連日開催されました。2週間という短い期間にも関わらず、IITGおよび北東インドの社会・文化を余すところなく学べるプログラムが提供されました。また、本プログラムを通じて現地学生との交流も深めました。

3月16日 (土) の最終日には、14トピックに分けられた項目からそれぞれの学生が学んだ内容をポスターにまとめ、英語でのプレゼンテーションと質疑応答を見事にこなし、修了証書を受け取りました。

※本事業は文部科学省「大学の世界展開力強化事業」の支援を受け実施しています。

(注) ジョイント・ディグリープログラム (JDP) 連携する大学間で開設された単一の共同の教育プログラムを学生が修了した際に、当該連携する複数の大学が共同で単一の学位を授与するもの。



海外留学フェア2025春

4月16日

本フェアは、留学に必要とされる語学力や岐阜大学における留学プログラムに関する情報提供及び留学の促進を目的として、平成24年度から開催しています。

本フェアは、本学 嶋 睦宏 グローバル推進機構留学推進部門長の司会のもと、小山 博之 グローバル推進機構長の挨拶から始まりました。

はじめに、留学支援係から本学の留学プログラムや支援制度に関する説明があり、続いて、ETS Japan合同会社及び公益財団法人日本英語検定協会から、英語能力試験 (TOEFL及びIELTS) の概要について説明がありました。約10分間の休憩後、短期英語研修プログラム、交換留学及び学部等派遣プログラムなどにより留学した学生から、留学経験に基づく発表を行いました。留学を経験して、英語を使うことに自信がついたこと、多様な価値観への気づきがあったこと、新しいことに興味を持つことができたことなど、留学を通じて成長した姿が伺えました。

また、参加者は、各担当者の説明や留学経験者の体験談に熱心に聞き入り、フェア終了後には個別質問をするなど、留学への関心の高さが感じられました。



危機管理オリエンテーション

7月2日

本オリエンテーションは、留学や海外旅行を予定している学生・教職員などを対象とし、事件や事故に巻き込まれないための意識啓発のほか、健康管理なども含め幅広く危機管理意識を醸成することを目的として開催しています。

本オリエンテーションは、嶋 睦宏 グローバル推進機構 留学推進部門長の司会のもと、小山 博之 グローバル推進機構長の挨拶から始まりました。

はじめに、本学 山本真由美 保健管理センター長からオンラインにて渡航前の予防接種や海外での健康管理について講演がありました。続いて、特定非営利活動法人海外留学生安全対策協議会 (JCSOS) 元理事の服部 誠 様から危機意識の重要性や安全対策に関するご講演がありました。さらに、東京海上インターナショナルアシスタンス株式会社の松本 拓也 様からはJ-TASについてのご案内があり、最後に株式会社東京海上日動パートナーズ東海北陸の松野 俊幸 様より、学研災付帯海学留学保険に関するご説明がありました。

海外で発生した事案や治安に関する情報、日本と海外との医療や保険制度の比較など、日本での生活では普段意識することが少ない話に、参加者は熱心に聞き入っていました。



海外で学ぶ



教育学部
鈴村 日菜

アルバータ大学



カナダ

ESLで見つけた宝物

英語で話す環境に飛び込んでみようと思っただけで不安でしたが、スキーに連れて行ってくれたホストファミリーにお礼を言った際、「また行こうね」と言ってもらえ、伝わったのが本当に嬉しかったです。正しいかよりも思いを伝えることを意識することで、英語で話す喜びを感じられました。また、カナダの多国籍を受け入れる空気感、一緒に頑張った仲間、受け入れてくれたホストファミリー… 1ヶ月という短い期間でも、これからも大切にしたい宝物を見つけることができました。

